

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	372300166		
法人名	有限会社介護しずくいし		
事業所名	グループホームしずくいし(かっこう)		
所在地	雫石町西安庭第15地割81番地26		
自己評価作成日	平成23年11月14日	評価結果市町村受理日	平成24年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372100966&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

園芸療法、音楽療法を行事の一環として行っています。地域と連携しながらご本人がより安心して暮らせる場の提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、緩い傾斜のある農地に南面して立地し、背後に岩手山、前面に御所湖を配し、付近には農家が散在する豊かな自然環境の中にある。広い畑もあり、野菜や花卉の栽培を通じて園芸療法が実践されている。理念は、①安全で快適な生活、②入居者のプライバシーと尊厳、③その人らしい暮らし、④地域と家族との絆、の4点を大切に守るという観点で構成されている。これらの理念は、毎朝唱和されて職員は皆そらんじることができる。特に「その人らしく暮らす」ということを重点に、やりたいことをやりたい時にすること、自発性を引き出して強制はしないことなどに配慮している。また、音楽療法として、月に1度、ホールでキーボードに合わせて、童謡、民謡を歌い、軽い体操なども行っている。地域とは、畑起こし、除雪などで協力を得るほか、夏休みには敷地を子供たちのラジオ体操会場に提供するなどの交流がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送時に理念を唱和し実践につなげている。	職員は、皆理念を暗誦することができ、それが日々の実践に活かされている。特に「その人らしく暮らす」ということを重点に、日常の介助に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど地域の方々を招き交流の機会を削っている。夏休みのラジオ体操に参加する子供たちに場所を提供している。地域婦人消防協力隊には年に一度参加してもらっている。	町内会には入っていないが、事業所の行事などについてのお知らせ(回覧)は、町内会にお願いしている。近所は農家が多く、野菜などの差し入れもある。散歩の機会などを通じて、事業所のことも地域に理解されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報等の作成、配布を行い地域への人々へ取り組みを理解してもらうよう努めているが充分とはいえない。		
	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議にて、民生委員、区長、役場の方々と情報交換をしている。	運営推進会議の委員は、行政区長・民生委員・役場職員に、管理者と各ユニットの責任者で構成され、利用者・家族は参加していない。会議では、管理者から活動の報告・予定・入居状況の説明がなされ、更に意見交換が行われている。	運営推進会議は、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合う貴重な機会である。利用者や家族の参加についても検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者と疑問があれば相談するようにしている。また運営推進会議時に情報交換を行っている。	広報誌を届けたり、行事の案内をしたり、情報の提供を行っている。地域包括支援センターとの連携も削っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、理解を深めている。夜以外は施錠をしていない。	最近、23年2月の長寿社会振興財団の研修を受けて、4月に職員からアンケートを取り、その結果について討議するなど勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止につとめている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームしずくいし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方がいるが、職員個々の理解は十分とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時 行き違いがないように十分に説明するよう注意している。また契約時の注意点など事前理解ができるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の思いや、ニーズに耳を傾け要望等を話せるようにケアプランの意向意確認を全職員がモニタリングできるように心がけている。	家族会はない。運営推進会議への利用者・家族の参加もないが、月に一度の家族来訪時に、家族との話し合いをしている。また、ケアプランの見直しの際などに、センター方式を活用し、家族や利用者の意向を聞き、反映させている。	個々の家族とは、話し合いが行われているが、家族間での集いの機会が少ないように思われる。行事などで家族が集まった際に、運営に関する報告などを含め、話し合いの機会を持つことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎時経営会議時など 職員の意向を管理者が聴き、会議時に伝えるようにしている。	法人内のグループの管理者の集まりがあり、その場で事業所からの要望が伝えられている。事業所の職員からの要望は、ユニットリーダーへ伝えられ、ユニットリーダーからホーム長(管理者)へと上げられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員の様子を聞き取り、向上心をもち働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修があり、必要時職員が受講できるように支援している。また内部での勉強会の機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内での行事での交流の機会などがある。またグループ内で勉強会の機会があり全体のサービスの質の向上にめけて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとりながら、様々な角度からのアプローチをし関係作りにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に訪れた際に本人の様子を伝えたり会話の糸口を見つけ要望をくみ取るようにしている。支援相談記録を活用するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時利用者のそれまでの情報に基づいて暫定的な介護計画を作成し根本的に必要としている支援をできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、その人が得意とするものを特に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	郵便物等に職員手書きのお便りを同封し、近況報告などもお知らせしている。入居者の緊急の受診の際にはご家族にも協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ行く等支援につとめている。	墓参りを希望する場合は一緒について行くなど要望に応えられるように支援している。最近の例では、誕生会で、かつて勤めていたデパートに行きたいという希望があり、一緒に出かけてきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の外出、散歩、家事を通じて関わり合いの場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様と会ったときにはあいさつをして、必要があれば相談に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話、行動の把握に努めケアプラン時に反映させている。	利用者の思いや意向は、外出の希望、家族とのふれあい、あるいは軽作業など様々である。センター方式でそれらの希望を把握・整理し、介護に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや日常の会話の把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス毎月1回、モニタリング毎月1回、家族本人の意向を伺っている。	カンファレンスには、管理者・ユニットリーダー・看護師・介護士など職員全員が参加している。ケアプランは原則として3ヶ月に一度、見直しをしている。畑作業・音楽療法を活用して軽運動とレクリエーションを計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に詳しく記録し、申し送り時に伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リーダー研修受講者がおりGHでの空床を利用してのショートステイが対応できる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームしずくいし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一度訪問理容サービスで理髪ができる。また年に一度公民館を利用し作品展覧会に出品したりする機会がある。地域婦人消防協力隊に協力をいただき本年も防災訓練を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在入居者の半数以上が他科受診である。個々に主治医がおり家族対応にて定期的に受診を行っている。また協力病院について職員が通院介助を行い定期的に受診している。	それぞれのかかりつけ医に家族対応で受診する利用者が多い。受診が急に必要になった場合は、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間オンコール体制であり、利用者急変時、体調不良時は看護師と密にと連絡を取り合い迅速な対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院があり、連絡調整を看護師が行っている。情報交換を行いながら早期に体調不良の見際目を行えるように週に一度看護師による健康チェックを行っている。必要時には主治医と連絡調整を行い早期受診、早期退院を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い次の生活環境としてのステージ、特別養護老人ホーム老人保健施設などの情報提供を行っている。出来るだけ早期に見極めるように努め、ご家族へ説明をする。看取りの指針を作成しご家族へ説明し同意を得ているが 重度化、看取りへの研修の機会が少ない。チーム内での充分な共有化、チーム力の向上を図りたい。	看取りの指針はあり、家族に説明して同意を得ている。これまで看取りの例はない。重度化、看取りの対応について研修はやったことがないが、他事業所の調査などは行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時の対応マニュアルがあるが、定期的な訓練は十分には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練があり、地域婦人消防協力隊の参加、消防署の立会いのもと訓練を行っている。避難方法については今後検討してゆく。	年2回の防災訓練は地域の消防協力隊と共に、消防署の立会いで実施している。避難所は、やや遠方であるから、検討している。震災時には、利用者は冷静で大きなトラブルはなかった。断水はなく、停電は3日間続いたが、懐中電灯、ローソク等に対応した。食物は、グループ内の施設間で融通し合った。職員の活躍と役場からと同業者からの食料、ガソリン、灯油等の応援が有難かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げ毎朝唱和する。トまた、トイレの位置にカーテンを設けるなどプライバシーに配慮している。また声かけなども自尊心を傷つけないような声かけを心かけている。	理念の一つに、「入居者のプライバシーを守り、家族と入居者の尊厳を守ります」を掲げ、これらの理念は毎朝の唱和などにより、職員に徹底されている。また、グループホーム協会の研修、所内勉強会などでも言葉掛けなどについて学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に耳を傾け、本人の思いを否定しない声かけをするよう職員は心がけている。利用者の表情をみながら会話をし、自分で決められるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその流れは決まっているが、可能な限り本人の希望を伺い、柔軟に対応している。それぞれ好きな場所で過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば馴染みの美容院へご家族同行で行くことができるなど そのひとらしさができるよう支援に取り組んでいる。季節や気候に合った服装ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態を見ながら可能であれば一緒に作ってもらい、食事の方付けなども職員と一緒にやっている。	家庭菜園の野菜を食卓にのせたり、収穫祭を行うなど食事を楽しむ工夫がなされている。また、おやつ作り、鏡開きのお汁粉、誕生会なども楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が偏らない様に心がけその人に合った量を提供し、食べる速さ、順序などを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、利用者一人ひとりに声かけを行い、口腔のケアを支援している。また、訪問歯科診療がある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームしずくいし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をチェックし、排泄パターンに応じた声かけを行い、自立した排泄が出来るように職員全体で取り組んでいる。	排泄が自立している利用者は1・2階合わせて4人位だが、自立支援の取り組みの中で自立に向かう人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物の調整、軽い体操を取り入れたり、室内を歩行練習したりして日々取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否のある方などは 時間をずらすなど継続的に入浴支援が出来るようにしている。また職員で検討しあって個々の状況に応じた支援ができるように努めている。おおよその時間帯を決めているがゆっくりと入浴を楽しんでいただけるようにしている。	風呂は毎日入浴出来るよう用意している。入浴時間は午後であるが、入浴を嫌がる人は午前でも対応して、清潔保持を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に夏は冷たい飲み物、冬は暖かい飲み物を提供し会話をしたりしながら安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ガーデックスに通院記録と処方シートを保管している。薬の箱に一人一人の処方内容を添付し誤薬が無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会、行事等で、入居者個々の状況をふまえて希望に沿うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会があり本人が可能な限り希望に沿って出掛けられるように支援している。また歩行が自力で難しい方などはホームの駐車場などを利用してひなたぼっこをしたりしている。	天候や季節などにもよるが、習慣的に散歩をしている。しかし、利用者の高齢化などに伴い(外出)時間は減ってきている。季節の行事などで、田沢湖、チャグチャグ馬っこ見学、温泉での忘年会などへ遠出もしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームしずくいし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いが出来る方については買物時支払いをしてもらっている。それ以外の方はご家族からお金を預かって事業所が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により年賀状を出す支援をしている。可能な限り本人の希望により電話をかけられるよう職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は清潔を十分に保ち、ホールは行事の写真、折り紙などで季節に応じた装飾を行っている。	居間と食堂を兼ねたホールは、明るく、適度な広さである。壁には折り紙などの手芸品が飾られて、和やかな雰囲気である。かつての民間会社の社員寮を改修した建物である。浴室、トイレなどの共用空間は清潔さの維持に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースではあるがソファを置き入居者同士が交流できる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人使用のテレビ、椅子、鉢植え、家具等が置いてあり個々に工夫されている。	居室の大半は南に面しており、明るい日差しが注ぐ。板敷きの床にベッドが置かれ、多くの部屋は壁面にクローゼットが組み込まれ、部屋はゆったりとした感じである。更に椅子やテレビなど、個人の生活に応じた家具等が持ち込まれている。壁には、写真や手芸品などがそれぞれ飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で歩行できるように手すりを設置し、自分で衣類整理できるように紙を張ったりしている。各居室のネームプレート、トイレや風呂場の表示 段差の注意書き等 できること 分かる事を最大限に生かせるように見守っている。		